

特定非営利活動法人APLA

2020年度 事業報告



2020年度は新型コロナウイルス（COVID-19）の世界的感染拡大への対応に追われるなかでスタートし、従来とはまったく異なる状況下であらゆる模索をしながら事業を進めた一年でした。

地域づくり事業の主な活動地であるフィリピン、東ティモール、インドネシアもCOVID-19の感染拡大防止のために、海外からの渡航はもちろん、域内の行動制限が続く、計画していた活動を大幅に縮小しなくてはならない状況が続きました。一方で、東京の事務局と現地スタッフとのオンラインでのコミュニケーションを密にし、関係者全員が知恵を絞って可能な限りの活動を展開しました。日本国内でも出店イベントやワークショップの開催がほとんど中止となるなか、オンラインツールを利用した新たな企画・コミュニケーションの充実に注力しました。また、2018年度をもって縮小を決断したオンラインショップAPLA SHOPを再整備し、民衆交易品を気軽に購入していただける工夫を続けています。

APLA共同代表の秋山眞兄さんが8月に、姉妹会社ATJの創立者である堀田正彦さんが12月に逝去されました。前身の日本ネグロス・キャンペーン委員会（JCNC）立ち上げ当初から活動を牽引してこられたお二人とのお別れはとても辛く、心細くもありますが、お二人が築いてくださった国際連帯の土台にしっかりと立ち、アジア各地の仲間たちと協力しながら、いのち・暮らしが守られる社会のための活動を展開していく決意を新たにしています。

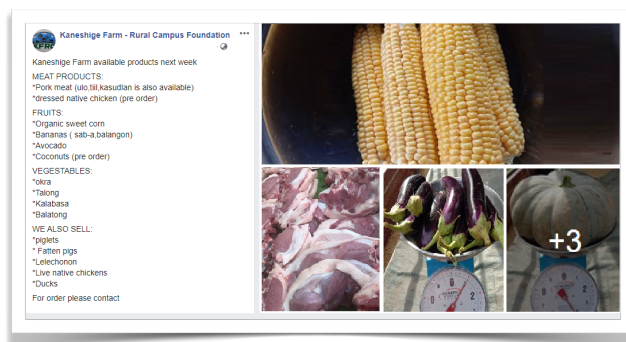
地域づくり事業

■ フィリピン・ネグロス

COVID-19の感染拡大の影響により、フィリピン・ネグロス島のカネシゲファーム・ルーラルキャンパス（以下KF-RC）の周辺地域でも行動の制限や安心できない状況が続いています。この状況をどう乗り切ろうかと、問題解決のためにKF-RCスタッフたちが積極的に話し合い、計画を実行して、新しい展開に結びつけることができた年でもありました。

①SNSを活用したデリバリーサービス

オンライン（Facebook）で野菜や肉の注文を取り、後日配達をするデリバリーサービスを開始しました。このサービスは、外出制限によって買い物に行く機会が減ってしまっている地域の需要に沿い、好評となり農場の運営を支えました。



②KIOSK（小さな売店）の設置

農場の入り口近くにKIOSKを設置しました。人の行き来も多い幹線道路沿いにKIOSKを作って、自分たちがどのような生産物作っているのかも地域住民に知ってもらいたい、そしてお客さんを増やしたいという思いが、今後の計画づくりのミーティングの際にKF-RCスタッフたちから出てきたため実行しました。自分たちの販売先を広げていくための取り組みとして、スタッフたちが考え出したアイデアの一つです。



③自立に向けた意識の芽生え

現地とAPLA事務局のオンラインでの対話がこれまで以上に増え、密な意見交換や将来像を考える機会が増えました。その結果、現地スタッフに自立に向けた意識がより身に付き始めてきたと実感しています。課題の把握、解決に向けた計画・実行、難しいときには外部に相談して進めるということが少しずつできるようになってきています。

■ フィリピン・北部ルソン

COVID-19の感染拡大の影響により、現地への出張ができませんでしたが、適宜オンラインでコミュニケーションを取り、状況把握をしました。具体的な活動の進展はない年となりましたが、2か所のBMWプラント（※）の稼働は順調とのことです。

※BMW：微生物（バクテリア）とミネラルの働きをうまく利用し、土と水が生成される生態系のシステムを人工的に再現する技術のこと。生物活性水は、この技術により作られる活性水。

■ 東ティモール

COVID-19感染拡大防止のために、東ティモールでは2020年3月27日に非常事態宣言が発令されて以降、1ヶ月ごとの延長が続いており、移動や社会活動への影響が続いていますが、日本から事業担当スタッフが渡航できないなかでも、東ティモールスタッフが主体的に地域での活動を進められたことは大きな成果です。

①学校菜園活動

2020年3月末から3カ月間は学校もすべて休校となりました。7月の学校再開後、これまで学校菜園の活動を展開してきたエルメラ県内の公立小中学校を訪問し、ランブータンという果物の苗を配布すると同時に、状況についての聞き取り調査を実施しました。

今年度新しく学校菜園の設置ができたのは、同県ハトリア郡のウラハウ小学校1校のみとなりましたが、若手農民のリーダーとして経験を重ねてきた3人が講師をつとめて、学校菜園ワークショップを成し遂げることができました。



②水源保全活動

現地協力NGOのPermatil（パーマティル）による環境教育キャンプや水源保全ワークショップに参加した経験のある若者たちが中心となって、エルメラ郡メルトゥット村で自分たちの集落の水源を保全するための活動が実施されました。

■ インドネシア

エコシュリンプの産地があるインドネシアもCOVID-19の影響は大きく、活動が展開できない時期が長期間続きましたが、東ジャワ州シドアルジョ県では、環境共生型のエビ養殖の将来を考え、地域の環境保全活動に取り組んでいるKOINが新たな村で家庭ゴミの回収プログラムを開始しました。

また、南スラウェシ州ピンラン県でも、KOINに刺激を受けたエビ生産者たちが自分たちでKONTINUという名前のNGOを立ち上げ、2021年度からの活動開始に向けて準備を始めました。APLAは、この2つの団体とオンラインでコミュニケーションを取りながら、活動実施のための協力を続けています。



交流事業

■ KF-RCとのオンライン交流

COVID-19感染拡大の影響でフィリピンに出張に行けない中、新たな取り組みとして、カネシゲファーム・ルーラルキャンパス（KF-RC）とオンラインでつなぎ交流するイベントを開催しました。開催は神奈川県藤沢市民活動プラザむつあいとレイディアントシティ横濱フレンドリークラブの2か所で実施しました。

交流企画前半は、フィリピンバナナについて。民衆交易の balan gonバナナと一般的なプランテーションバナナの現状について伝え、私たちにできることや感想などを参加者の皆さんと共有しました。

交流企画後半は、実際にKF-RCとオンラインでつなぎ、交流をしました。緑が生い茂る農場やかわいい子豚の映像を覗き込むようにして観ていた参加者の姿が印象的でした。緊張はしていたものの、気取らず普段通りの様子を見せるカネシゲファームスタッフの姿に自然と親しみを持ってくれたのかもしれません。交流企画は好評で、既に来年度も開催したいとお声がけをいただいております。



■福島・二本松

COVID-19感染拡大の影響で、2020年度は二本松を訪問することはできませんでしたが、9月には、二本松有機農業研究会のソーラーシェアリング第1号機についてのオンライン報告会「畑で電気と小麦を作る福島の農家さんのお話」をNPO法人アークス仏教国際協力ネットワークとの共催で開催しました。

二本松有機農業研究会から、稼働までの苦労や稼働してからの発電・売電状況など、なかなか知ることのできない話を聞くことができ、これから計画されている2号機、3号機の建設の際の応援方法などについて参加者の意見を聞く時間も設けることで、将来につながる企画となりました。

■福島の子どもたちに届けよう、バナナ募金

2011年3月の福島第一原発の事故後、子どもたちが少しでも安心・安全な食べものが食べられるようにと福島の保育園・幼稚園に農薬を使わずに栽培されている balan gonバナナを定期的に送る活動を継続しています。今年は10年目の取り組みです。

19年度に理事3名と事務局スタッフがいくつかの園を訪問して以来、園との交流（メールや手紙のやりとり）が増え始めました。またバナナの話をしてほしいと再訪を希望してくれている園もあり、オンラインでフィリピンと園との交流ができないか検討中です。



【20年度の発送実績】 バナナ611kg（269,769円相当）

【発送先】 いわき市2件、福島市11件、郡山市1件、南相馬市1件：計15件

■BMW技術

COVID-19感染拡大の影響により、例年開催される全国交流会、若手幹事会、基礎セミナーは中止となりました。

広報・出版事業

■ 「アジアンコーヒー」 ワークショップ開催

毎年恒例となったアジアのコーヒーの魅力や各地での活動を伝える講座を今年度はオンラインで開催しました。今回もアユス仏教国際協力ネットワーク、シャプラニール、PARCIC、ATJの5者で共催。オンライン開催ということで試行錯誤をしながらの実施となりました。

特に好評であったのが、ATJ中村氏によるドリップバッグの淹れ方講座でした。事前に参加者にドリップバッグセット（東ティモール、ネパール、ラオスの3種）を送付し、講座中に淹れ方の説明をしながら、参加者は実際に各家庭で淹れてもらいました。質疑応答の時間も取り、手軽に美味しいコーヒーが淹れられた、と参加者のいい反応が多数でした。



■ 「ホンモノの手作りチョコレート」 ワークショップ

例年大好評のワークショップですが、2020年度はCOVID-19の影響でほとんど開催ができませんでした。一方で、オンライン会議ツールを活用した新たな試みに挑戦し、2020年5月には、FTSN関東 高校生支部主催で休校中の高校生の皆さんを対象に、2021年3月には、NPO法人開発教育協会の依頼で神奈川県川崎市にあるフリースペースえんに通う子どもたちにチョコレートづくりやパプアの魅力を伝えることができました。いずれの回もパプアのカカオキタ社のスタッフともオンラインでつなぎ、新たな交流や学びの機会をつくることができました。



■ 梨の木ピースアカデミー

「新しい時代の出会い・学び・ネットワークの実践の場」として、2020年6月からスタートしたオンライン&オフライン併用の市民講座「梨の木ピースアカデミー(NPA)」の中で、APLAの共同講座を開講しました。

具体的には、10月開始の第2期から「村井吉敬の小さな民からの視点」というコースタイトルで、APLAの元共同代表でもある故村井吉敬さんがなされてきたことの流れを汲んで「モノとコト、グローバリゼーション、民衆交易、東南アジア地域」をテーマにした全6回の講座を18名が受講。加えて単発の受講者や運営ボランティアスタッフや関係者などの聴講も多数ありました。2021年3月開始の第3期でも継続開講しています。

公式ウェブサイト <https://npa-asia.net>

■ エシカルバナナ・キャンペーン

日本市場に流通するフィリピン産プランテーションバナナの問題を日本の消費者に広く伝え、問題解決に向けた活動を展開してきたエシカルバナナ・キャンペーンだが、2018年夏の立ち上げから2021年3月末までの活動および成果をまとめ、これまでの活動を担ってきた実行委員会を第1期として解散しました。

なお、4月からは第2期として、APLAとアジア太平洋資料センター（PARC）で活動を展開していきます。

ウェブサイト <https://www.e-banana.info/>

Facebookページ <https://www.facebook.com/ethicalbanana/>

■ フェアファイナンスガイド・ジャパン（FFGJ）

日本の大手金融機関の投資融資方針を社会性の視点から格付けするフェアファイナンスガイド・ジャパン（FFGJ）の一運営団体として、APLAでは、主にSNSでの情報発信を担っています。格付けスコアだけでなく、問題企業・事業をピックアップし、投融資方針と実態の差異に光を当てるための「ケース調査」も実施し、環境破壊や人権侵害等への資金循環を止めていくことを目指しています。



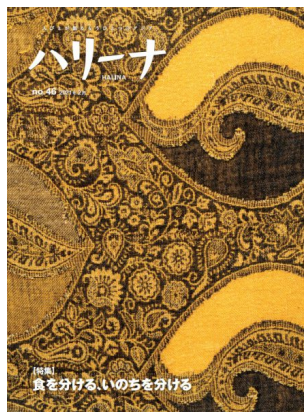
ウェブサイト <https://fairfinance.jp/>

Facebookページ <https://www.facebook.com/fairfinanceguidejapan/>

■ 機関誌『ハリーナ』発行

45号（2020年8月） [特別報告] コロナ禍を生きる一民衆交易の現場から

46号（2021年2月） [特集] 食を分ける、いのちを分ける



ハリーナは最新号以外、PtoP NEWSはすべてのバックナンバーを、ウェブサイト上でご覧いただけます。



■ PtoP NEWS発行（ATJと協同）

vol. 37（4月）広がれ！村でのゴミ回収システム～エコシュリンプを守り継ぐために～

vol. 38（6月）四半世紀を越えてバランゴンバナナを作り続けて～西ネグロス州シライ地域の生産者たち～

vol. 39（8月）二重の災厄に苦しむパレスチナ～イスラエル占領下のコロナ事情～

vol. 40（10月）ペルーコーヒー生産者の再出発

vol. 41（12月）パプアのカカオ生産者の声をご紹介

vol. 42（2月）たくさんの人びとの手作業・手仕事で生み出されるマスコバド糖



緊急支援事業

■ フィリピン・ミンダナオ地震

2019年10月、ミンダナオ島コタバト州でマグニチュード6規模の地震が相次いで発生し、同州マキララ町のバランゴンバナナ産地でも大きな被害が出ました。その被災者支援のために、「APLA緊急災害支援準備金」から合計3万米ドル（日本円換算で330万6000円）をバランゴンバナナの出荷責任団体ドンボスコ財団に送金しました。ドンボスコ財団は、2020年度もバランゴンバナナ生産者や近隣地域の被災住民への支援活動を継続しており、APLAではその支援報告の発信などをおこないました。

※「APLA緊急災害支援準備金」残額：12,562,770円

民衆交易事業

■ ネットショップ

2019年4月に縮小したネットショップですが、理事会で検討を重ね、パートタイムスタッフを1名採用することで、2020年7月から商品のバラ・セット販売を再開しました。

リニューアルしたネットショップでは、クレジットカード決済や後払いも可能になり、買い物がしやすくなったとの声も届いています。10月からは、民衆交易品を素材として使用したお菓子とコーヒーとのペアリング頒布会も開始し、20人以上の会員を獲得しています。



2020年度の売上合計：7,477,545円

ネットショップ：5,272,986円

手わたしバナナくらぶ：1,703,170円

その他：501,389円

■ イベント出店、移動カフェ

COVID-19感染拡大の影響により、例年出店していたイベントの開催が中止となったため、物販・移動カフェ車ともに出店はありませんでした。

■ 会員数（2021年3月末時点）

	個人	団体	合計
正会員	87	32	119
賛助会員	71	11	82
合計	158	43	201

■ 組織体制

理事：秋山眞兄(共同代表/8月に逝去)、市橋秀夫(共同代表)、疋田美津子(共同代表)、
野川未央(事務局長)、生田喜和、鹿毛優子、廣瀬康代、堀芳枝、箕曲在弘

監事：近藤康男

評議員：赤松結希、秋山澄兄、大橋成子、近藤恵、吉澤真満子

顧問：弘田しずえ、前島宗甫

事務局：野川未央(事務局長/専従)、寺田俊(専従)、

坂野亜希子(パートタイム)、福島智子(パートタイム)

■ 総会・理事会・評議員会

総会：第13回総会（2020年6月6日）

理事会：第38回（2020年4月25日）、第39回（2020年6月10日）、
第40回（2020年9月26日）、第41回（2021年2月27日）

評議員会：第29回（2020年9月26日）、第30回（2021年2月27日）

■ 賛同

- ・署名運動「カムイチェプ＝サケに対するアイヌの権利回復を」
- ・3メガバンク株主総会に向けたオンライン国際署名
- ・モザンビーク北部での日本の公的融資を止めるための声明
- ・要請文「イスラエルによるヨルダン川西岸地区併合を阻止するための行動を取ることを要請します」
- ・共同要請書「ミャンマー国軍を利する日本政府の経済協力事業を直ちに停止するよう求めます」

■ 他団体とのネットワーク

- 東ティモール・フェスタ実行委員会
- NGO非戦ネット
- 辺野古・高江を守ろう！NGOネットワーク

■ 活動カレンダー

4月25日	理事会・評議員会
4月28日	日本大学国際関係学部で寺田がオンライン講義を担当しました。
5月4日	FTSN関東 高校生支部の皆さんからオンラインでインタビューを受けました。
5月23日	FTSN関東 高校生支部の皆さんとオンラインでチョコレートワークショップを開催しました。
6月6日	第13回総会
6月10日	理事会
6月17日	日本農業経営大学校で野川がオンライン講義を担当しました。
7月15日	JVC、アユス仏教国際協力ネットワーク、日本YWCAと一緒に外務省中東アフリカ局中東一課を訪問し、イスラエルによるヨルダン川西岸に関する要請文を提出しました。
7月21日	APLA SHOPリニューアルオープン
7月26日	ハチドリ電力とオンラインイベントを共催しました。
8月18日	「市民活動プラザむつあい」の依頼でネグロスのカネシゲファーム・ルーラルキャンパス（KF-RC）とつないでのオンラインイベントを開催しました。
9月12日	オンラインイベント「畑で電気と小麦を作る福島の農家さんのお話」をアユス仏教国際協力ネットワークと共催しました。
9月24日	映画『バナナの逆襲』のオンライントークイベントにスピーカーとして野川が参加しました。
9月26日	理事会・評議員会
10月2日、5日、7日	連続オンラインセミナー「甘いバナナの苦い現実」をアジア太平洋資料センター、Fair Finance Guide Japanと共催しました。
10月11日	秋山眞兄さんを偲ぶ会をオンラインで開催しました。
10月23日	映画『バナナの逆襲』のオンライントークイベントにスピーカーとして野川が参加しました。
10月23日	梨の木ピースアカデミー×APLA共催講座「村井吉敬の小さな民からの発想」第1回開催（講師はAPLA理事の堀芳枝さん）。
10月28日	KF-RC理事会開催(日本からオンラインで参加)
10月30日	グリーンコープ fromネグロス学習会がオンラインで開催されました。
11月5日～27日	グリーンコープ fromネグロスセミナーが、ひょうご、おかやま、やまぐち、ふくおか南、さが、おおいた、かごしま、島根、くまもと、みやざき、おおさか、とっとり、ひろしまの13か所でオンライン開催されました。

11月6日	梨の木ピースアカデミー×APLA共催講座「村井吉敬の小さな民からの発想」第2回開催（講師はAPLA事務局の野川）。
11月13日、14日	互恵のためのアジア民衆基金の理事会および年次総会（オンライン）に市橋共同代表と事務局の野川が参加しました。
11月20日	の木ピースアカデミー×APLA共催講座「村井吉敬の小さな民からの発想」第3回開催（講師はカカオキタの津留歴子さん）。
11月27日	全国消費生活相談員協会主催の消費者講座「コーヒー豆から学ぶフェアトレード」の講師を寺田が担当しました。
11月28日	オンラインイベント「知らなかった！アジアンコーヒー入門2020」をアユス仏教国際協力ネットワーク、オルター・トレード・ジャパン、シャプラニール、パルシックと共催しました。
11月29日	ホンモノの手作りチョコレートワークショップをスキマ（東京都大田区）にて開催しました。
12月3日	川崎市宮前市民館の平和人権学習講座第3回で野川が講師を務めました。
12月8日	梨の木ピースアカデミー×APLA共催講座「村井吉敬の小さな民からの発想」第4回開催（講師はAPLA事務局の野川）。
12月10日	梨の木ピースアカデミー×APLA共催講座「村井吉敬の小さな民からの発想」第4回開催（講師はAPLA事務局の野川）。
12月18日	梨の木ピースアカデミー×APLA共催講座「村井吉敬の小さな民からの発想」第5回開催（講師は立教大学の石井正子さん）。
12月20日	フレンドリークラブ（神奈川県）の依頼でネグロスのKF-RCとつないでのオンラインイベントを開催しました。
2021年1月8日	梨の木ピースアカデミー×APLA共催講座「村井吉敬の小さな民からの発想」第6回開催（講師は上智大学の八尾祥平さん）。
2月27日	理事会・評議員会
2月27日	国際ボランティア学会2020年度村井吉敬賞を野川が授賞、オンライン授賞式に参加しました。
3月1日	梨の木ピースアカデミー×APLA共催講座「村井吉敬の小さな民からの発想Part.2」第1回開催（講師はカカオキタのデッキーさんと津留さん）。
3月10日	開発教育協会（DEAR）のコーディネートにより、フリースペースえん（川崎市）での手作りチョコレートワークショップの講師をオンラインでつとめました。
3月19日	梨の木ピースアカデミー×APLA共催講座「村井吉敬の小さな民からの発想Part.2」第2回開催（講師は東洋大学の寺内大左さん）。
3月22日	パルシステム埼玉「平和募金」の授与式に参加しました。